

本日のタイムスケジュール

時刻	内容	
18:30	1	開会
	2	挨拶
18:35	3	議題(1) 第3期認知症とともに生きる希望計画の策定に向けた意見交換
18:50		・説明…計画の策定に向けた検討について、グループワークの進め方について
19:20		・ワーク1…認知症になってからも、自分らしく暮らし続けるために必要なこと
19:25		<休憩>
19:55		・ワーク2…自分らしく暮らし続けるために、私に出来ること
20:20		・共有…各グループより出た意見を発表(各グループ3分程度)
		・全体を通じた質疑応答
20:20		議題(2) その他
	4	今後の予定
20:30	5	閉会

令和8年3月16日（月）午後6時30分～
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ

令和7年度第3回世田谷区認知症施策評価委員会 次第

1 開 会

2 挨拶・・・資料1

3 議 題

(1) 第3期認知症とともに生きる希望計画の策定に向けた意見交換・・・資料2、3、4

(2) その他

4 今後のスケジュール・・・資料5

・令和8年度第1回世田谷区認知症施策評価委員会

日時：令和8年6月22日（月）

会場：世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 研修室A

5 閉 会

資料

資料1 世田谷区認知症施策評価委員会 委員・パートナー名簿

資料2 第3期認知症とともに生きる希望計画の策定に向けた検討について

資料3 令和7年度第3回認知症施策評価委員会★みんなで話そう（ワークショップ）

資料4 ワークショップグループ名簿

資料5 次回「令和8年度第1回評価委員会」までの流れについて（予定）

世田谷区認知症施策評価委員会名簿（令和6年10月1日～令和8年9月30日）

	区分	氏名	職（所属）等
1	本人	貫田直義	テレビ東京アメリカ元社長、 元テレビ東京プロデューサー
2	本人	丹野玲子	元介護職
3	学識経験者	大熊由紀子	国際医療福祉大学大学院教授
4	学識経験者	村中峯子	神奈川工科大学健康医療科学部看護学科 特命教授
5	学識経験者	田中富美子	弁護士、世田谷区社会福祉協議会成年後見センター 事例検討委員会副委員長
6	学識経験者	永田久美子	認知症介護研究・研修東京センター副センター長 (研究部部长)
7	学識経験者	西田淳志	(公財) 東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長
8	専門医	大島健一	都立松沢病院認知症疾患医療センター長
9	専門医	長谷川幹	世田谷公園前クリニック名誉院長
10	地区医師会	吉澤直人	(社)世田谷区医師会医療連携・福祉事業部 担当理事
11	地区医師会	山口潔	(社)玉川医師会理事
12	地区歯科医師会	村上直弘	(公社)世田谷区歯科医師会担当理事
13	地区歯科医師会	栗屋剛	(公社)玉川歯科医師会担当理事
14	地区薬剤師会	佐伯孝英	(社)世田谷薬剤師会監事
15	地区薬剤師会	橋元晶子	(社)玉川砧薬剤師会理事
16	地域団体	小池宗和	世田谷区民生委員児童委員協議会副会長
17	地域団体	高橋和夫	世田谷区町会総連合会副会長
18	地域団体	小塚千枝子	世田谷区商店街連合会女性部相談役
19	地域団体	高橋聡子	在宅介護家族の会「フェロー会」代表
20	地域団体	中澤まゆみ	認知症カフェ多職種ケアネットワーク 「せたカフェ」代表、福祉ジャーナリスト
21	地域団体	岡崎克美	世田谷区社会福祉協議会副会長
22	介護保険事業者等	徳永宣行	世田谷区介護サービスネットワーク代表
23	介護保険事業者等	相川しのぶ	世田谷区ケアマネジャー連絡会会長
24	介護保険事業者等	氏家雅史	経堂あんしんすこやかセンター
25	介護保険事業者等	佐々木由実	九品仏あんしんすこやかセンター
26	介護保険事業者等	遠矢純一郎	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター代表
27	学生	浪井百合香	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
28	学生	庄司のどか	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科

世田谷区認知症施策評価委員会パートナー名簿（令和6年10月1日～令和8年9月30日）

	氏名	職（所属）等
1	貫田 弥生 友子	貫田直義委員パートナー
2	中田 成子 土屋 明之	丹野玲子委員パートナー

第3期認知症とともに生きる希望計画 の策定に向けた検討について



- I 認知症とともに生きる希望条例及び希望計画について
- II 第3期計画策定の進め方
- III 第2期計画の課題と第3期計画の方向性

I 認知症とともに生きる希望条例及び希望計画について

▶ 条例の基本理念（条例第3条）

- ・ 本人一人ひとりが自分らしく生きる希望を持ち、どの場所で暮らしていてもその意思と権利が尊重され、本人が自らの力を発揮しながら、安心して暮らし続けることができる地域を作る。
- ・ 区民、地域団体、関係機関及び事業者が認知症に対し深い関心を持ち、自らのことと捉え、自主的かつ自発的な参加及び協働により地域との関わりを持つことで、認知症とともにより良く生きていくことができる地域共生社会の実現を図る。

▶ 計画の目的

- ・ 世田谷区認知症とともに生きる希望条例に掲げる「一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、せたがや」の実現を目指し、区としての中長期の構想のもと、認知症施策を総合的に推進する。

▶ 計画の位置付け

- ・ 世田谷区認知症とともに生きる希望条例の推進計画
- ・ 共生社会の実現を推進するための認知症基本法第13条に定める「市町村認知症施策推進計画」
- ・ 計画期間は3年間

認知症とともに生きる希望条例の基本理念

- ・本人一人ひとりが自分らしく生きる希望を持ち、どの場所で暮らしていてもその意思と権利が尊重され、本人が自らの力を発揮しながら、安心して暮らし続けることができる地域を作る。
- ・区民、地域団体、関係機関及び事業者が認知症に対し深い関心を持ち、自らのことと捉え、自主的かつ自発的な参加及び協働により地域との関わりを持つことで、認知症とともにより良く生きていくことができる地域共生社会の実現を図る。

計画目標1

条例に掲げる新しい認知症のイメージを持っている人を増やす

計画目標2

認知症になってからも希望を持って暮らせると思う人を増やす

計画目標3

本人が参画するアクションチームを全28地区に増やす

取組み方針

★ 本人発信・社会参加の推進
【区の認知症施策の要】

条例の考え方・理解を深める取組み

備えの推進・私の希望ファイル

地域づくりの推進

暮らしと支え合いの継続の推進

Ⅱ 第3期計画策定の進め方

各地域の認知症の本人や家族、サポーター等の声を聴き、各地域の課題や必要とされていることを明らかにすることで、認知症の本人を起点とした施策や取組みを重視しながら計画策定を進める。

■ 意見聴取の方法

① 認知症カフェや本人家族ミーティング等でのヒアリング

実施時期…令和8年1月～8月上旬

内 容…各地域ごとの認知症カフェや本人家族ミーティング等で認知症の本人、家族、パートナー、あんすこ、事業者等にヒアリングを行う。

対 象…ミーティングセンターたね(北沢地域) ……令和8年1月7日
オレンジカフェ KIMAMA(世田谷地域) ……1月10日
若年性認知症本人交流会(玉川地域) ……2月4日
上北沢地区ワークショップ(烏山地域) ……2月19日
喜多見地区アクションチーム だんだんの会(砧地域) ……2月19日

② アクションチーム交流会でのワークショップ

実施時期…令和8年2月26日(木) @保健医療福祉総合プラザ研修室

内 容…全28地区のアクションチームの交流会の場において、ワークショップを実施し、そこでの意見を聴取する。

③ 認知症の本人交流会の参加者への意見聴取

実施時期…令和8年3月～7月(奇数月)

内 容…交流会の参加者にヒアリングを行う。

④ 居場所サミットの参加団体でのワークショップ

実施時期…令和8年6月頃

内 容…5月17日(日)実施の居場所サミットの参加団体を対象にしたワークショップを実施し、そこでの意見を聴取する。

⑤ 認知症専門相談員等の研修会でのワークショップ

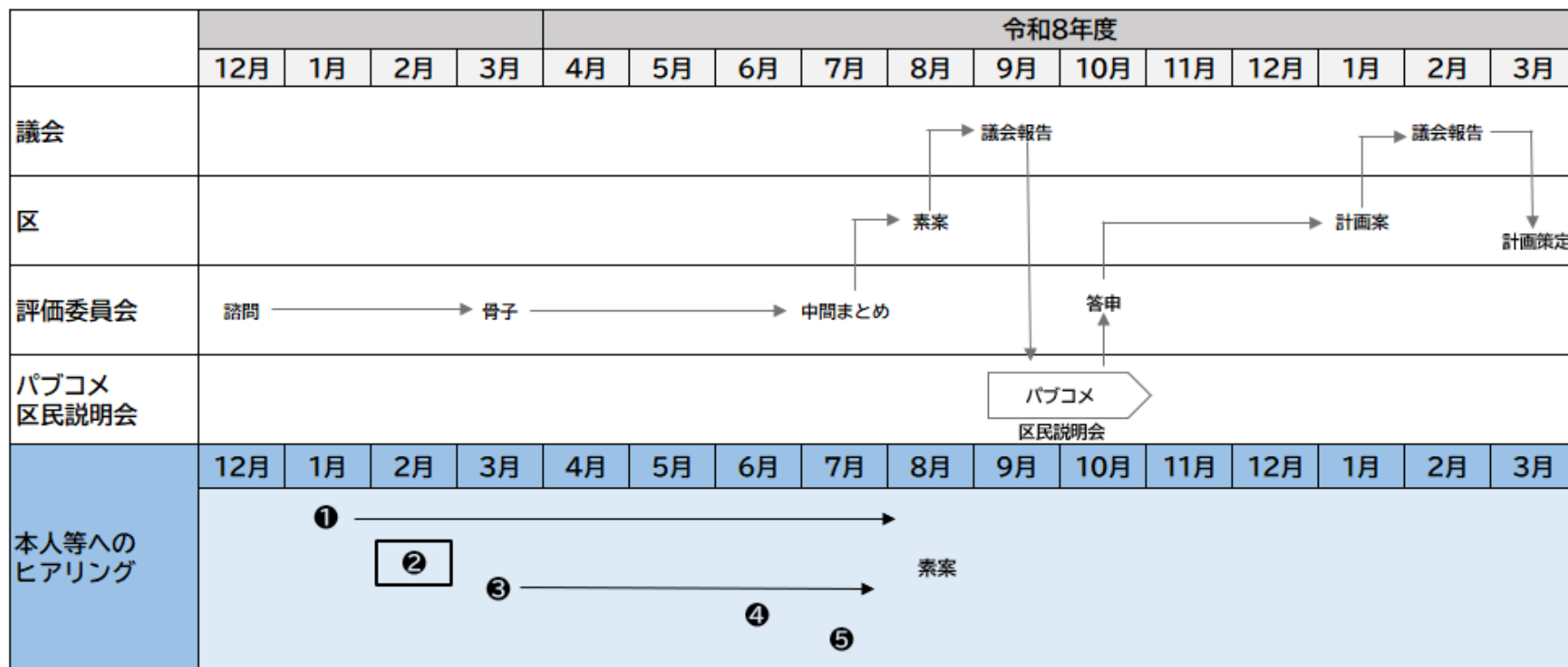
実施時期…令和8年7月頃

内 容…全あんすこ、各地域保健福祉課の職員の認知症対応に係るノウハウの向上に向け、講義及びワークショップを実施している。そこでのワークショップの意見を聴取する。

⑥ その他

高齢者見守り協定連絡協議会など、認知症以外の会議体などの機会も活用しながら、認知症の本人や家族等の意見の聴取に努める。

■ 意見聴取のスケジュール



認知症カフェや本人家族ミーティング等でのヒアリング

1. チームたね

1. 実施日 令和8年1月7日(水)
2. 対 象 チームたね スタッフ2名、参加者5名(認知症の本人2名、MCI1名、家族2名)
3. チームたねの概要

もの忘れが気になる方、認知症がある方、そのご家族など、集まった方々で、何をするか話し合ってから、2時間ほど楽しく活動。自分たちのペースで好きなことをして過ごすことを大切に、毎月1回程度開催。

4. 意見の要旨

テーマ	意見
本人発信・社会参加	<ul style="list-style-type: none">・社会参加すると良い。(町会パトロール・ラジオ体操など)・人とつながりが自分の暮らしの参考になるため、気軽に集まれる場が身近にあると嬉しい。・好きなことでなければ続かない。自分に向いている活動を見つけていくことが大切。(例…体操は気が向かないけど、昔やっていたボウリングなら体が覚えていて楽しめる。)
新しい認知症観	<ul style="list-style-type: none">・あんすこの施設の入口に認知症の取組みをお知らせできるデジサネや広告がおけると良い。
認知症への備え	<ul style="list-style-type: none">・認知症の前触れはあるのか、突然来るのは怖い。・運動で脳に刺激を与えることが有効。また、食事と人とのつながりが必要。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・地域とのつながりや周囲の口コミがないと、必要な情報を得る機会を失ってしまう。・介護保険を活用する前から情報を持っておくことが、その後の安心につながる。
認知症ケア等	<ul style="list-style-type: none">・あんすことつながったことで、幅広く情報が得られた。認知症と共に生きるための最初の一步として、適切な情報とつながることが大切だと実感した。

2. オレンジカフェ KIMAMA

1. 実施日 令和8年1月10日(土)

2. 対 象 オレンジカフェKIMAMA スタッフ8名、参加者14名(家族4名、地区住民9名、ケアマネ1名)

3. オレンジカフェ KIMAMAの概要

認知症の本人、介護家族、地域の人たち、専門職が集い、交流する場。

もの忘れが心配な方、認知症について知りたい方、閉じこもりがちな家族を連れ出したい方など
誰でも参加可能。気軽に専門職に相談もできる。毎月1回開催。

4. 意見の要旨

テーマ	意見
本人発信・社会参加	<ul style="list-style-type: none">・本人同士が交流する場があると良い。・車いすを押す際に、道路が斜めで怖い。
新しい認知症観	<ul style="list-style-type: none">・周囲にオープンにすると本人も家族も楽になる。・本人が出来ることや楽しいことを見つけることが大切。
認知症への備え	<ul style="list-style-type: none">・意思表示を補う仕組みがあると良い。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・思い切って近所に認知症をオープンにしたら親切に接してくれて安心した。・勧められ認知症カフェに来ることができ、家族自身のストレス解消もできた。
認知症ケア等	<ul style="list-style-type: none">・介護保険サービスを安心安全に利用できるよう、サービスの質の向上に努めて欲しい。・本人の思いや、本人が出来ることや楽しいことを引き出す人材の養成が必要。・地方の保養所活用など、新たな発想で介護を支援する仕組みを作って欲しい。・介護保険サービスの質を担保し、公表する仕組みがあると良い。・介護人材の高齢化を感じる。AIなどの有効活用もできると良い。・本人が希望する在宅生活を継続するため、家族の介護負担軽減の体制が必要(金銭面も)。・在宅継続には、家族の介護負担軽減が大事。ショートステイなど利用しやすくなると良い。

3. 玉川・若年性認知症の会

1. 実施日 令和8年2月4日(水)
2. 対 象 玉川・若年性認知症本人交流会 スタッフ5名、参加者4名(認知症の本人2名、家族2名)
3. 玉川・若年性認知症の会概要

若年性認知症の「本人ミーティング(エンパワメントセッション)」と「家族会」を、会場を2つに区切り開催。思いや生活の知恵・情報の共有や、やりたい事を出し合い仲間とチャレンジする場にもなっている。玉川地域のあんしんすこやかセンター5か所が、毎月1回、協働で開催している。

4. 意見の要旨

テーマ	意 見
本人発信・社会参加	<ul style="list-style-type: none">・区内に若年性認知症の居場所・通いの場があると良い。・通所の場合、規定の利用期間の終了後、次の通所先を探すことが難しい。
新しい認知症観	<ul style="list-style-type: none">・見た目では分からない若年性認知症について、近隣や周囲の人の理解があると暮らしやすい。
認知症への備え	<ul style="list-style-type: none">・同じ立場の人が集まるからこそ得られる情報がある。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・(居住自治体に限らず)若年性認知症関連の情報が集めやすく、参加できると良い。・この会を継続したいが会場確保が難しい。会場探しをサポートする仕組みがあると良い。
認知症ケア等	<ul style="list-style-type: none">・相談窓口の名称に「若年性認知症」の記載がないと、相談に行くのをためらう。・相談初回にサービス一覧をもらったが、混乱して読めず、必要な情報を得られなかった。状態に合わせた情報提供や、気軽に相談できると良い。・区に若年性認知症コーディネーターを配置して欲しい。・高次脳機能障害と症状は似ていても、進行すると病態が異なる。障害サービスが若年性認知症のニーズに合っていない。

4. 上北沢地区ワークショップ

1. 実施日 令和8年2月19日(木)
2. 対 象 参加者9名(認知症の本人1名、家族1名、パートナー4名他)、あんすこ職員3名
3. 上北沢地区ワークショップの概要

第3期認知症とともに生きる希望計画の策定に向けて、「認知症になってからも安心して暮らせるまち、せたがや」について、みんなで一緒に考えることを目的に、上北沢あんしんすこやかセンターが臨時で開催。あんしんすこやかセンターを利用している本人・家族や、地域活動に携わっている地区住民等が参加。

4. 意見の要旨

テーマ	意見
本人発信・社会参加	<ul style="list-style-type: none">・知らない人と話すことが一番の薬になっている。・閉じこもっている人を外に出すきっかけ作りが難しい。・民生委員と連携して、家にこもりがちな人に声をかけたら良いと思う。
新しい認知症観	<ul style="list-style-type: none">・困った人がいる時に気軽に声をかけられると良い。
認知症への備え	<ul style="list-style-type: none">・スマートフォンを持たないことで、地域のサービスや情報から取り残されてしまうのではないかと不安がある。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・団地は建物が似ていて目印がなく、お年寄りが歩くと道に迷ってしまう。それぞれ建物の色を少し変えるなど、分かりやすく工夫して欲しい。・バス停にも椅子がない所がある。ベンチなどの休める場所があったら外に出やすい。・スーパーのレジで時間がかかっても小銭でゆっくり支払えると良い。 また、支払いを全てキャッシュレスにせず、キャッシュレスと現金を選べると良い。・シルバーカーでの外出がしやすいよう、道路の段差をなくして欲しい。・お年寄りだけでなく、若者も入れて多世代で交流することが大切。
認知症ケア等	<ul style="list-style-type: none">・スマートフォンを持っていなくて行方不明の不安がある方には、代替手段を検討した方が良い。

5. だんだんの会

1. 実施日 令和8年2月19日(木) (※本会のみ10分間での開催)
2. 対 象 参加者35名(認知症の本人1名、家族1名、団地住民30名他)、スタッフ5名
3. だんだんの会の概要

地域住民がお互いに顔の見える関係を築き、いざという時に協力しあえる体制づくりを目的とした気軽に集える「つどいの場」を、団地自治会が主催、四者連携(まちづくりセンター・あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会地区事務局・児童館)が共催のもと毎月1回開催。福祉や介護に関する相談にも対応している。

4. 意見の要旨

テーマ	意見
認知症への備え	・一人暮らしのため、迷子になった際に自宅や地方に住んでいる家族へ連絡をしても対応できない。まちづくりセンターなどの電話番号を迷子札に記入し、すぐ誰かに来てもらえるような体制があると安心。
地域づくり	・バスの本数が少ない。京王バスと小田急バスの時間が重ならないようにバスの時間を調整して欲しい。 ・小銭がたまってしまうので、レジでゆっくり支払えると良い。 ・もの忘れはお互い様。助け合えたり、声をかけ合える関係や雰囲気があると良い。

Ⅲ 第2期計画の課題と第3期計画の方向性

第2期計画の課題

■ 本人発信・社会参加、新しい認知症観

- 施策の立案段階から本人が関わる体制の強化
- 本人の声に焦点を当てた情報発信の強化
- 新しい認知症観の浸透に向けた更なる取組み

■ 地域づくり

- アクションチームの立ち上げ後、活動の見直しや改善に本人が十分に関わっていない地区もある
- アクションチームの輪の拡大

■ 認知症ケア、認知症への備え

- 若年性を含めた本人の希望に寄り添った支援の充実
- 認知症になることへの不安感による相談・受診の遅れ

第3期計画の方向性

- 多くの本人の希望につながる取組みを実施するため、本人の声を聞く機会を拡充
- 認知症観の転換に資する本人の活躍を一層発信
- 取組みの効果分析を強化し、より多くの方に認知症を自分事として捉えてもらえる取組みを推進

- 本人の声を起点としたアクションの立ち上げ、本人がアクションの運営や改善に主体的に関わる体制を強化
- 多世代への参加促進を図るなど継続性を確保

- 関係機関との連携を強化し、意思決定支援の充実や相談体制を強化
- 認知症観の転換を図りながら、身近な場で相談や対応ができる取組みを拡充

▶ 本人発信・社会参加、新しい認知症観

- ・計画策定やイベント企画の初期段階から本人が中心となって関わる仕組みを構築し、施策評価委員会への本人委員の増員など、政策検討の場でより貢献できる体制を整備すべき。
- ・認知症の単なる医学的な知識の普及にとどまらず、認知症の方の「思い」や「実際の暮らし」に焦点を当てることで、理解を深められるような啓発を行うことが重要。
- ・本人の意見や体験を、民間事業者や医療・介護現場と直接共有し、施設の改善などに活かすことが重要。
- ・本人が希望を持って暮らせる世田谷に向け、多くの区民が人とのつながりやサポートの重要性を再認識し、社会全体が一步步変化し続ける継続的な取り組みを推進すること。
- ・本人交流会や地域アクションの活動を認知症在宅生活サポートセンター等からタイムリーに発信し、区民や関係者間で共有できる仕組みが必要。
- ・認知症の本人を「知る」ことが理解の第一歩である。アクションチーム等の活動を通じて本人の社会参加を広げ、本人の姿に直接触れる機会を増やすことで、地域全体の認知症観の転換を図っていくとよい。
- ・次世代への啓発として、区内の小中学校、高校や大学など、地域ぐるみの理解促進を目指すべきである。

▶ 地域づくり

- ・アクションチームへの大学生等の参画を促す仕組みを構築すること。
- ・アクションチームに本人が企画段階から関わった経緯や、本人の活躍を見た周囲の変化などの具体的な事柄を広く共有し、活動の質的向上と普及を図ること。
- ・認知症が進行してもできるだけ自宅で暮らせるまちづくりを目指し、公的サービスを補完するため、地域の助け合いやテクノロジーの活用が重要になってくる。

▶ 地域づくり

- ・ 行方不明対策の強化を図るために、事例の分析結果などを警察と情報共有することが大切。また、交通マナーの改善を警察に働きかけ、誰もが安心して外出できる環境を整備する必要がある。
- ・ ICT機器の活用促進や、さりげなく地域で見守る体制を気づくため区の高齢者見守りステッカー等の利便性の改善を図るなど本人がサポートを得られやすいような取組みを検討すべき。

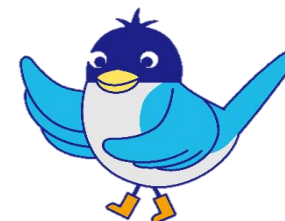
▶ 認知症ケア、認知症への備え

- ・ 診断直後の絶望を防ぐため、あんすこやケアマネジャーが、本人の希望を聞きとり支援につなげることが重要。
- ・ 薬剤師やかかりつけ医など、日々の接点から異変に気づき適切な医療機関やあんすこにつなぐ体制が必要。
- ・ BPSDケアプログラム等の認知症ケアの手法を広げるための事業者への周知や、世間体や知識不足により相談に至らない層にも支援情報を届けるための情報発信の強化が必要。
- ・ 「私の希望ファイル」は単なる書類ではなく、意思決定支援の「プロセス」を重視しながら検討を進めること。
- ・ 認知症の方を含む高齢者のふらつきや転倒への不安を解消するための、予防策を進めるべき。
- ・ 認知層への抵抗感（スティグマ）が受診・相談の遅れを招いている。あんすこが「介護が必要になる前から活用できる身近な相談場所」であることを周知し、心理的なハードルを下げる啓発を強化すること。
- ・ 認知症の新薬が登場する中、もの忘れ等の違和感を覚えてから受診までの期間を短くすることが重要であるため、長寿健診等で認知症やフレイルの早期の兆候を見つけるなど「診断前支援」を強化を進めるべき

令和7年度 第3回認知症施策評価委員会★みんなで話そう(ワークショップ)

安心して自分らしく 暮らせるまちを目指して

世田谷区高齢福祉部
介護予防・地域支援課



「新しい認知症観」とは？

認知症になったら何もできなくなるのではなく、
一人一人が個人として
できること・やりたいことがあり、
住み慣れた地域で
仲間等とつながりながら、
希望を持って自分らしく
暮らし続けることができる

あなたの暮す世田谷でも…

認知症になってからも、
できることは自分で、
家族や仲間と一緒に地域や職場で、
得意なことや好きなことを生かして、
笑顔で過ごしている方々が
少しずつ増えてきています。

イメージしながら考えてみましょう

これから年齢を重ねても、
認知症になってからも、
安心して暮らせるせたがや

であるために…

自分事としてイメージしてください

もの忘れて困ることはあるけれど、
この暮らしをつづけるために、
私なりに工夫しています

例えば・・・

歯医者者の予約で

予約日を間違えないように、
いろいろと工夫をしています。

歯医者者の予約日は診察券裏に書いてもらっているが、また受診日を間違えてしまった。日にちと曜日が混乱してしまうし、予約自体も忘れてしまうこともある。受付の方から「カレンダーや手帳に書いて、毎日朝予定を確認したらどうですか？」と勧められたので、今回は、会計の時に受付で手帳を出して、その場で予約日を書きこもうと思っています。

夕飯のお惣菜は自分で選びたい！

今日食べたいものは、
自分で選びたい。自分で買いに行きたい。

種類が豊富なスーパーでの惣菜選び。やっと選んでお会計に行くと、会計はいつも長い列。やっとレジにたどり着いても支払いで手間取ってしまい、人目が気になり、また千円札を出してしまいました。そのせいで小銭はどんどんたまっていく……。焦らず自分のペースで買い物ができたらいいのに。

就労支援の施設で仲間と出会えて

就労支援の施設での仕事を通じて仲間もできました。
この生活を続けていきたい。

50代で診断を受けてからは、かかりつけ医の先生やケアマネの方々のサポートを受け、工夫などを凝らしながら一人暮らしを続けてきています。元々細かい手仕事が好きで、私に合った仕事ができる通所の施設を見つけました。お小遣い程度ですが、少しお給料がもらえることは、私の喜びの一つです。ただ最近は一人で通所することが大変に感じる場面もあります。今はケアマネさんにも相談し、工夫をしながらなんとか頑張っています。これからも、この暮らしを続けられたらいいなと思っています。

では、ここからは

グループで話し合きましょう

思いを言葉に

してみましよう♪



ここでの約束（グラウンドルール）

- 人の話は最後まで聞き、否定や非難をしない。
- 一人が話を独占することなく、皆で楽しむ。
- ここで話したり、聞いたりした個人的なことは、外に持ち出さない。

ワーク1

【テーマ】

認知症になってからも、自分らしく暮らし続けるために必要なこと

【手順】

1 個人ワーク(3分)

- ・付箋に思いを書いてみよう
- ・1枚に1つの事柄(何枚書いてもOK)

2 話してみよう

- ・自己紹介
- ・付箋を元に思ったこと、考えたことを話そう

では・・・

次のテーマです

【テーマ】

自分らしく暮らし続けるために、私に出来ること

【手順】

- 1 個人ワーク(3分)
 - ・付箋に思いを書いてみよう
 - ・1枚に1つの事柄(何枚書いてもOK)
- 2 話してみよう


グループで出た意見の紹介

【ワーク1】

認知症になってからも、
自分らしく暮らし続けるために必要なこと

【ワーク2】

自分らしく暮らし続けるために、私に出来ること



**貴重なご意見を、
ありがとうございました！**

ワークショップグループ名簿

1グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
8	河野	一般参加	
5	三枝	一般参加	
9	佐藤	一般参加	
4	宮本	一般参加	
6	永田※	評価委員	認知症介護研究・研修東京センター副センター長(研究部部长)
3	小池	評価委員	世田谷区民生委員児童委員協議会副会長
7	浪井	評価委員	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
2	福島	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
1	中村	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

2グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
3	泉	一般参加	
4	梶川	一般参加	
1	中澤※	評価委員	認知症カフェ多職種ケアネットワーク、「せたカフェ」代表、福祉ジャーナリスト
8	村上	評価委員	(公社)世田谷区歯科医師会担当理事
7	佐伯	評価委員	(社)世田谷薬剤師会監事
2	木村	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
5	池田	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課
6	諏訪	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

3グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
4	丹野	一般参加	
5	谷崎	一般参加	
3	中田	一般参加	
8	大島	評価委員	都立松沢病院認知症疾患医療センター長
9	栗屋	評価委員	(公社)玉川歯科医師会担当理事
7	村中※	評価委員	神奈川工科大学健康医療科学部看護学科 特命教授
6	石川	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
1	大橋	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課
2	笠原	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

4グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
9	那須	一般参加	
8	篠崎	一般参加	
2	氏家※	評価委員	経堂あんしんすこやかセンター
3	吉澤	評価委員	(社)世田谷区医師会医療連携・福祉事業部 担当理事
4	長谷川	評価委員	世田谷公園前クリニック名誉院長
5	庄司	評価委員	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
1	村島	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
6	落合	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課
7	星野	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

5グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
8	花尾	一般参加	
7	高橋(聰)	評価委員	在宅介護家族の会「フェロー会」代表
2	山口	評価委員	(社)玉川医師会理事
3	徳永	評価委員	世田谷区介護サービスネットワーク代表
4	岡崎	評価委員	世田谷区社会福祉協議会副会長
6	佐々木※	評価委員	九品仏あんしんすこやかセンター
5	村上	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
1	戸部	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

6グループ

※:進行役

席番号	氏名	区分	職(所属等)
5	藤原	一般参加	
1	橋元※	評価委員	(社)玉川砧薬剤師会理事
2	西田	評価委員	(公財) 東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長
3	相川	評価委員	世田谷区ケアマネジャー連絡会会長
6	永野	事務局	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
4	笹原	事務局	高齢福祉部介護予防・地域支援課

次回「令和8年度第1回評価委員会」までの流れについて（予定）

月	時期	内容	詳細
3月	中下旬	骨子案の作成	事務局にて、これまでの評価委員会での議論、聴取した認知症の本人等の声を基に「計画策定にあたっての骨子案」をとりまとめ ※聴取した声は、適宜反映
4月	上旬	骨子案への意見募集	評価委員へ骨子案を送付し、意見を募る
	中旬	意見募集〆切	寄せられた意見を事務局で集約→骨子案へ反映
	下旬	骨子確定	正副委員長による内容確認を経て、骨子を確定
5月	上中旬	中間まとめ案の作成開始	骨子、これまでの評価委員会での議論、聴取した認知症の本人等の声を基に「中間まとめ案」の作成を開始 ※聴取した声は、適宜反映
	中下旬	庁内検討委員会の開催	関係所管で構成する庁内検討委員会から意見募集
6月	中旬	ワークショップ	居場所サミットの参加団体によるワークショップ ※聴取した声は、適宜反映
	22日(月)	第1回評価委員会の開催 中間まとめ案の審議	委員会にて「中間まとめ案」を提示・審議

意見提出票
(第3回認知症施策評価委員会)

お名前： _____

本日は、第3回認知症施策評価委員会にご参加いただき、ありがとうございました。
追加でご意見がある方は、下記をご記入の上、ご提出ください。

項目 該当するものに丸をつけてください	意見の内容
1. 第3期計画について 2. ワークショップについて 3. その他	
1. 第3期計画について 2. ワークショップについて 3. その他	
1. 第3期計画について 2. ワークショップについて 3. その他	